

のちせやまじょうあと 13 後瀬山城跡(8次)

所在地：小浜市小浜男山他

調査原因：史跡整備に伴う確認調査

調査期間：令和3年7月～10月

調査主体：小浜市

調査面積：150 m²

時代：室町～江戸時代



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 後瀬山城は大永2(1522)年若狭守護職武田元光^{たけだもとみつ}により築かれ、後瀬山上に城郭を、麓に守護館を設けました。当城は若狭国主の城郭として慶長6(1601)年の京極高次^{きょうごくたかつぐ}による小浜城の築城により廃城となるまで若狭武田氏・丹羽氏・浅野氏・木下氏の歴代国主の城として存続しました。当該城跡は、平成9年に史跡に指定され、その後平成28年守護館跡が追加指定を受けました。なお、本格的な調査は今回で8回目になります。

主な遺構 今回の調査は、守護館跡の北側を画する堀跡と、東側に存在が想定される門遺構の確認を目的に実施しました。北側堀跡は、地盤の砂の上に直接基底石を据え、その上に石を積んでいることが確認されました。石は7～8段分を確認しており、本来はあと1～2石分積まれていたと想定しています。堀の堆積土は粘土となっていることから常時滞水していたと考えられます。実際明治4年小浜町図にも堀が描かれており、その後埋められ道路に変わったことがわかっています。門遺構は長方形の石材をコの字状に据え、その中に黄色系の土を入れています。この長方形石材は青みがかっており、福井市の足羽山で産出される笏谷石^{しやくだにいし}を用いていたと考えています。笏谷石が若狭に入って来るのは江戸時代になってからと考えられることから、小浜藩主酒井家に関わる施設(空印寺^{くういんじ})の門遺構と想定しています。なお、一部で下層遺構も確認しており、中世まで遡る遺物が確認されていることから、今後の調査で詳細が明らかになるかもしれません。

主な遺物 今回の調査では江戸時代の陶磁器、瓦が多く出土しましたが、過去の調査では、室町時代の陶磁器、土師質土器、^{はじしつ}瓦質土器、金属製品、石製品、土製品などが確認されています。 (西島伸彦)



後瀬山城跡（守護館跡）航空写真



後瀬山城跡（守護館跡）北側堀跡



後瀬山城跡（守護館跡）門遺構